

2020/12/10

(うと Q 世話し 潮目の変わり時の捉まえ方二種)

昔からよく言われることですが

「大波が来る前には、いったん潮が引く」

といいます。

潮がグーッと沖合の方に向かって引いた後、その力をため込んで、空から覆い被さってくるように「ドッカア〜ン」と大波が襲いかかってくる。

大波が来る前に、引く潮が良い出来事（つまり悪い予兆）なのか、引く潮が悪い出来事（つまり良い予兆）は様々ですし、その後で来る大波が「大凶」の波なのか「大吉」の波なのかも様々で、その掛け合わせ可能数だけ種々様々な現実が眼前に現れてきます。

ただ、わかっている事は大変時（大波）が来る前には、必ず一旦何かが引いていく（減じていく、遠ざかっていく）事だけははっきりしているようです。

良きにつけ悪しきにつけ何かしらの変化がある訳です。

これを俗に「潮目が変わる」といいます。漁師言葉が起源です。

その掛け合わせ可能数の中で最も気をつけなくてはならないのは、

事前には一旦「悪い出来事」が減って（詰まりよい予兆）安心した処に、ドッカア〜ンと「大凶」の大波が来るケースです。

そうして、最も苦しいときに持った方がいいのが

事前には一旦「良い出来事」がどんどん減って（詰まり悪い予兆）捨て鉢になりかける気持ちをググッと堪える（こらえる）踏ん張りでしょう。

すると、案外、そのご褒美として「鶴の恩返し」ではありませんが時をおいて「大吉」の大波がやってくる場合もたまにはあります。

確率でいうと前者が 99%、後者が 1%。

そこで出てくるのが、サバイバル精神の御本尊「スポ根大明神様」です。

「1%でもまだ可能性が残ったのやったら、諦めたらあかんねんでえ。世の中どちらか一方が 100%は、絶対にないのやから、なっ」

スポ根台詞をむやみに使うと理不尽かつ大けがの基になりますが、多少なりとも理を踏まえ、使うタイミングを測って用いますと、結構ツボに嵌まった「応援歌」になる場合もあながち「ない」とはいえませんが。

つまり

「あり」そうだという事です。

追記)

外国の人は、初っ端 1%でも可能性がある（詰まり全くゼロではない限り）

「おっ、ラッキー」

と一声。

そのパーセンテージさえ今後上げていけばいいのだと、遮二無二突っ込んでできますが、自分

の見る限り、我が国の人材は、実現可能性が 99%でも

「どうして 100%ではないのか？」

と不満げに聞くようなところがあります。

どちらが良いとはもうしません、好みとしては前者です。